



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成24年度 第2号
(平成25年3月発行)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
宮川英子

東大原小学校八十五周年おめでとう。

同窓会会長 宮川英子 (十三回卒業生)

以下は平成二十四年七月七日小学校体育館で行われた八十五周年記念児童集会での宮川会長の講話です。

今日は東大原小学校八十五歳の誕生日、おめでとうございます。

私も東大原と同じ昭和二年生まれで八十五歳です。

この東大原小学校で学び、この学校に先生として十三年間勤めさせていただき、今は、この学校の同窓会のお仕事をさせていただいてとても感謝しています。

東大原小学校ができたころ、このあたりは「大原」という地名の通り、一面の原っぱで、畑もたくさんありました。

成徳学園のあたりから西には、「トトロの森」と同じようにたくさんさんの木がしげつてうすぐらい「まもりやま」という森がありました。

森の中程には古井戸がありました。底もみえない古い井戸で石を落すとしばらくして「ドボン」という音がして、怖くなって逃げたのでした。そして「代田」という名の通り、南側の低い土地には田んぼがひろがっていました。

北沢中学の北には沼地があり、春にはオタ



平成二十五年度定例総会のお知らせ

左記の要領で平成二十五年度定例総会を開催いたします。

同窓会会員の皆様には出席のほどお願いいたします。卒業生は全て会員です。四〇分くらいの議事後には同窓生の講話や懇親会が催されます。懐かしい顔に会うチャンスです。

日時：平成二十五年四月二十一日(日曜日)

三時から五時

場所：東大原小学校体育館

内容：総会議事、講演会、懇親会

講演会は、二十七回生でポニーキヤニオン元会長の佐藤修さんに、音楽の世界で働いてきた人生を語っていただきます。なかなか音を聴く機会のないエジソンが発明した蠟管式蓄音機など貴重な音楽発生器を多数御持参のうえ、演奏を聴かせていただきます。子供にも大人にも楽しい講演です。

マジックシが、たくさん泳いでいました。そこから流れ出る小川は下北沢あたりまで続いていました。いまでも北沢中学の校庭の下には暗渠というしくみで川が流れていると聞いています。

この学校が出来た少し前に、京王線、小田急線などの電車がはしりはじめ、このあたりは一気に開発が進みました。いまの一番街は昔、ずずらん通りとっていましたが、つぎつぎとお店ができてにぎやかになりました。それと同時に住む人がふえて、「第三荏原」という名前だったこの学校もすぐ教室が足らなくなりました。

私が小学校を卒業したのは今から七十二年前ですが、当時一クラス五十五人、男女それぞれ三クラスでしたから、総計三百四十三人、今のこの学校は全校二百七十二人だそうですから、毎年全校児童分ぐらいが卒業していったのでした。当時は全校生徒千八百人を超えて、休み時間にはこの校庭に子どもたちがあふれ、走り回ればぶつかり合う

ほどでした。

昭和二十年、今から六十七年前に、この辺りは空襲を受け、周りの住宅と共に、校舎のほとんどが燃えてしまいました。「空襲」とは何かは、それぞれの学年で先生に教えてもらってください。

昭和二十三年、私はこの学校の先生になり、一年生を受け持ちました。空襲の後、まだ教室が足りないので二部授業でした。早番は八時半から、遅番は十時半からの二時間授業でした。早番の授業をしていると、遅番の子供たちが、こわれてガラスもない教室の窓からのぞいていました。音楽の授業には両方のこどもたちが声を張り上げて大合唱になったことも、今思えば楽しい思い出です。

きょうここに八十五周年を迎え、東大原のこどもたちはほんとうに幸せです。

焼け跡の学校から、今日まで、東京都や世田谷区の方々、北沢、大原、代田の地域の方々、それぞれの時代の先生の方々、父母の方々、みんなの力で、今、この立派な東大原小学校があるのです。

校歌に「朝夕仰ぐ神山富士の・・・」とあります。

私が生徒だったころは、西側の二階の音楽室から、朝夕、富士を仰ぐことができました。せんだって三階のランチルームをお借りして同窓会の会議をしていましたが、終わって片づけをしていましたら、誰かが大声で叫びました。

「富士山がみえるぞ」と。

みんな「えー」と驚きました。

みんなで肩を寄せ合って、建物の間から、遠

く小さいけれど夕日に輝く富士山をみつけました。

東大原小学校は永遠です。

この歴史ある東大原に学ぶことを自慢してください。

そして卒業して社会に出たら、世のため、人のためになるりっぱな人間になってください。

一万二千百六十名を超える同窓生も心から母校八十五周年をお祝しています。

東大原小学校八十五周年、おめでとうございます。

私のお話を一生懸命きいてくださってありがとうございました。

八十五周年を迎えて

同窓会の皆さんへ

東大原小学校長 大野 忠雄

東大原小学校同窓会長宮川英子様を始め同窓会の皆様には、日ごろより東大原小学校の教育活動にご理解・ご支援・ご協力をいただき大変ありがとうございます。

私が着任してからの二年間だけでも数え切れないほど皆様にご支援いただいています。

運動会では、二年続けてテントを寄贈していただきました。今までの重く、組み立てにくいものでなく軽い金属で大変扱いやすいものです。また、体育館用に高機能のエレクトーンを寄贈していただきました。音楽集会などでは、いつも使わせていただいています。また、昨年七月に行われました本校の創立八十五周年を記念した会で、全児童に記念鉛筆を寄贈していただきました。子どもたちも周年の記念として大変良い記念品となりました。

更に、一昨年の六月に「同窓会文庫」を立ち上げていただきました。現在は図書室の「コーナー」としてその存在を大きくしています。学校予算ではなかなか購入できない本や子どもたちのためにぜひ揃えたい本など、この二年間で二百二十二冊も揃えていただきました。

同窓会の皆様のご支援は、まだまだあります。毎年十二月に行っている一年生とくるみ学級の餅つきには、いつも餅つきのお手伝いに来ていただいています。子どもたちに丁寧に餅のつき方を教えていただき、一人一人に寄り添っていただいています。

学校だけでなく、学校の教育活動に関わるPTAや地域の活動にも積極的にお手伝いいただいています。昨年十月に行われたPTA研修会には、同窓会の皆様のお骨折りで絵本作家の伊勢ひで子さんを講師としてお呼びして講演会を開催することができました。全体で二百人近い皆さんが集まった講演会でしたが、大変好評を得ました。

その他、おやじの会主催の校庭キャンプ、遊び場開放主催の餅つきなど同窓会の皆様に応援に駆けつけていただいた行事もたくさんあります。

このように、同窓会の皆様の応援を日々いただきながら東大原小学校の子どもたちはすくすくと成長していることを考えると大変嬉しくなります。私たち教職員も一丸となって皆様のご期待に応え子どもたちのより良い成長、また東大原小学校の更なる発展のために努力していきたいと思えます。これからもどうぞ、よろしく願います。

創立八十五周年に

同窓会の歩みと活動を振り返る

理事 野地 勝彰（二十四回生）

同窓会の創立と会報の発行

戦前に創立されたようですが、戦後中断していたのを再建して一九六一年に再開第一回総会が開かれ、会則が作成されました。一九六六年には同窓会報が創刊され、二〇〇九年からは年二回になり、創刊号のガリ版刷り一ページから現在では八から十二ページになっていきます。小学校図書室内の同窓会文庫でバックナンバーを見ることが出来ます。

周年行事

同窓会の目的の一つは母校の発展を図り教育環境の向上の為に事業を行うことです。それに沿うように母校創立の周年に合わせ母校へ寄贈してきました。PTAと共同のものもありますが三十五周年には「歴代校長の写真」を校長室に掲示、五十周年には「岩石園」、六十周年には「ジャングルジム」、六十五周年には「テント」「下敷き」、七十周年には「綴帳」、八十周年には「陶芸釜」、八十五周年には「テント」「名入れ鉛筆」、またそれ以外にも一九六三年の体育館完成記念として「ステージ幕」、二〇一一年に「テント」「エレクトーン」を寄贈しました。

これとは別に八十周年には記念誌「故きを温ねて」を発行しました。また同窓会として五十周年、七十周年、七十五周年には「会員名簿」を発行して以後毎年更新し現在一二一六〇名の会員をコンピュータで管理しています。

この他最近では、地域との連携をはかり同

窓会活動の円滑化も図っています。東大原小学校PTAやおやじの会との連携、北沢商店街の阿波踊り、校庭で行われる暮れの餅つき大会、「ライブで楽しむ東大原」の会、成徳学園との交流などが行われています。一月には、春高バレー全国優勝のお祝いもしました。

総会と講演会

毎年開かれる総会では議事の他に各界で活躍されている同窓生の方々に講演をお願いしてきました。一九九九年は萩原朔太郎の娘さんで作家の「萩原葉子氏」、二〇〇二年はトヨタ「張富士夫氏」、二〇〇三年は日本社会事業大学学長「京極高宣氏」、二〇〇四、五年は参議院議員「中川雅治氏」、二〇〇六年は商店会青年部役員「大木弘人氏」「畠山晋一氏」、二〇〇七年は同窓会理事「岩下秀男氏」「山縣武夫氏」、二〇〇九年は市場経済研究所主管「岡本匡房氏」、二〇一一年は北海道陸別町銀河の森天文台主任「寛伸浩氏」、二〇一二年はジャズピアニスト「山下洋輔氏」でした。講演の演題は別表をご覧ください。

会計規模・その他

会報創刊号に載っている一九六六年度の会計予算は五万七千円です。二〇一二年度の予算は百十六万五千円です。この点からも同窓会の発展が大きかったかこの点からもおわかりいただけると思います。その他特筆することとしては戦時中に母校から学童疎開に行つた長野県松本市の浅間温泉と下伊那のお寺を二〇一〇年に訪問し現地の方とともに疎開当時についてのセミナーを開催しました。

東大原小学校同窓会のあゆみ

昭和2年7月7日	東京府荏原郡第三荏原尋常小学校設立
昭和7年10月1日	東京府東京市第三荏原尋常小学校 …… 校名変更
昭和11年11月13日	校歌制定
昭和12年10月21日	創立10周年記念式典
昭和16年4月1日	東京市東大原国民学校 …… 校名変更
昭和22年4月1日	東京都世田谷区立東大原小学校 …… 校名変更
昭和32年11月7日	創立30周年記念式典
昭和36年6月11日	同窓会総会 …… 会則作成
昭和37年5月13日	創立35周年記念事業 …… 歴代校長写真寄贈 ・ 記念植樹
昭和38年3月9日	新体育館完成記念にステージ幕寄贈
昭和38年5月18日	同窓会 …… 役員名簿発行
昭和41年4月29日	同窓会報創刊
昭和42年11月1日	創立40周年記念式典

東大原小学校同窓会のあゆみ

昭和43年4月29日	同窓会総会
昭和43年7月1日	同窓会報発行
昭和52年4月29日	同窓会総会
昭和52年7月7日	創立50周年記念事業・・・岩石園完成・名簿45頁作成・会報発行
昭和62年11月28日	創立60周年記念事業・・・ジャングルジム完成
平成4年4月5日	創立65周年記念講話3回・お年寄りとの会食
平成4年4月30日	創立65周年記念事業・・・テント 一張寄贈・下敷配布
平成9年11月15日	創立70周年記念事業・・・緞帳寄贈・名簿59頁配布
平成11年7月4日	同窓会総会再開・作家萩原葉子さん講演・同窓会報発行
平成12年7月2日	同窓会総会・商店会阿波踊り・PTAコーラス等・同窓会報発行
平成12年11月15日	同窓会掲示板 新設
平成13年4月22日	同窓会総会・商店会による模擬店・同窓会報発行
平成14年4月21日	同窓会総会・講演 トヨタ張社長
	創立75周年記念行事・・・名簿作成252頁・同窓会報発行
平成15年4月20日	同窓会総会・日本社会大学京極学長講演・同窓会報発行
平成16年4月18日	同窓会総会・前環境省中川事務次官講演・同窓会報発行
平成17年4月17日	同窓会総会・参議員議員中川雅治氏講演・同窓会報発行
平成18年1月	同窓会報発行
平成18年4月16日	同窓会総会・講演「子供達と商店街のつながりと現在及び これからの下北沢について」商店会青年部役員大木弘人 畠山晋一両氏
平成19年1月	同窓会報発行
平成19年5月13日	同窓会総会・講演「下北沢の歴史あれこれ・下北沢の生い立ち・関東 大震災」岩下秀男理事・「乗り物の変遷」山縣武夫理事
平成19年11月24日	創立80周年記念式典・記念事業 陶芸釜寄贈(PTAと共同) 記念誌「故きを温ねて」岩下秀男監修 発行
平成20年3月	同窓会報発行
平成20年4月20日	同窓会総会・講演なし、代わりに 新入会員の遊び場設定、卓球 輪投げ大会
平成21年3月	同窓会報発行
平成21年4月19日	同窓会総会・講演「経済ってなに？」市場経済研究所主管 岡本匡房氏
平成21年7月	同窓会報発行 初めての年2回
平成22年3月	同窓会報発行
平成22年4月18日	同窓会総会・パネル座談会「私達の町の移り変わり」
平成22年5月	同窓会旅行・戦時中の学童疎開地を訪問
平成22年7月	同窓会報発行
平成23年2月	テント寄贈
平成23年3月	同窓会報発行
平成23年4月17日	同窓会総会・講演「望遠鏡で宇宙を旅する」58回生 寛伸浩氏
平成23年6月	同窓会文庫創設
平成23年7月	同窓会報発行
平成23年10月	エレクトーン寄贈
平成24年2月	創立85周年記念テント寄贈
平成24年3月	同窓会報発行
平成24年4月15日	同窓会総会・講演 ジャズピアニスト 山下洋輔氏(本校に1年生の時在籍)
平成24年7月7日	創立85周年式典・記念鉛筆寄贈

同窓生の集い

高層ビルの四十八階から

津軽三味線「ジョンカラ節」

山口 健司（二十六回生）

二十六回生・六年三組・担任樋口慶子先生のクラス会は、六月一日、新宿・住友ビル四十八階で開かれました。

出席した人の「変わらないねー」「元気そうだね」の挨拶のあと、出席できなかった人の葉書を紹介しました。近況報告では、十五名がそれぞれの健康や暮らし、趣味や家族・お孫さんの事などそれぞれ心の内を語り、話はつきませんでした。



今回のクラス会には、知人の紹介で津軽三味線のプロを招いての懇親と親睦を兼ねたものになりました。恩師の樋口先生は御都合が付かず残念ながら欠席されましたが、近いうちに御自宅に伺うなど「どうしても会いたいね」という話になりました。

ある程度話が進んで、京都風懷石料理の美味さに箸が進んできた頃、太棹を携えて一人の青年、車谷建太さんの出番です。津軽三味線のプロです。食前酒のあと、ビールや日本酒、ワイン等、それぞれ多少のアルコールが程よく酔わせて、三味線のなんとも言えない風情に全員が酔いしれました。四十八階の窓から新宿の都心に向かって、クラス会の楽しい雰囲気の流れ出しているようでした。二、三十分の約束の時間はとくに過ぎていましたが太棹からは心に響く三味線が流れていました。話は尽きませんでした。二次会の予約時間は過ぎていました。京王プラザではコーヒーなど飲みながら、話し足りない思いを歓談しあいました。

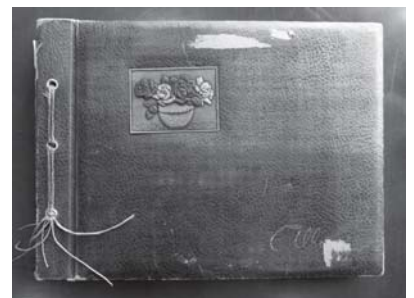
「次回も楽しく、近いうちに」となりましたが、来年は古希を迎えます。「1人でも多くのクラスメートが集まれるような企画を考えたい」と約束をして散会いたしました。

学童疎開のころ

青井 文子様（十一回生）に

聴く学童疎開のころ

「東大原小学校の図書室に置かせていただいている同窓会文庫には故青井勝太郎先生が、浅間温泉と伊那地方の二か所での学童疎開引率時に撮影した、貴重なアルバムが青井先



生の奥さま、青井文子様から寄贈されています。それぞれのスナップには先生の字で感想や生徒の名前なども記入され、当時の生々しい雰囲気が伝わってきます。

昨年三十四回生の片柳洋子さんから、青井先生の奥さまも独身時代東大原の先生で、青井先生と一緒に学童疎開に行っていたらしいという話を聞き、平成十二年六月十五日、片柳さんにお願ひし一緒に奥さまの自宅を訪問させていただきました。足が悪いとおっしゃっていましたが、ユーモアあふれるお元気な八十六歳の先輩で、終始笑いに包まれながらお話しいただきました。これはその時の奥さまのお話です。」

私は高校を卒業して家にいたんですが、昭和十八年のある日、道で小学校時代の恩師、須田先生とばったりお会いして、学童疎開が始まるがその費用を集めたりいろいろ大変なので、学校の事務員として来てくれませんかと言われたのです。それで父も学校なら歩いて行けるし安心だからと賛成して、事務員と

して入ったのです。そのうち戦争が激しくなつて、若い先生がみんな召集されてしまうでしょう。それで大久保校長が試験を受けて先生になれって言うんですよ。「えー？」てなもんでしたが、なんとか受かつて、正式な教員ではないけれど、助教ということになりました。

そのころ多くの生徒たちは浅間温泉に疎開していたのですが、私は浅間温泉には行っておらず、学校に残って、主に疎開児童の為の費用を集める仕事や、残った生徒の面倒を見る仕事をしていました。

ところが昭和十九年三月には浅間温泉も食糧難で再疎開することになり天竜川流域の伊那地方、飯田市の手前の村々へ移ったのです。その時は私も先生になつていて、児童を引率して行くことになりました。

伊那では生徒は五つの村に分かれました。私は座光寺村の耕雲寺に行きました。そこには田使先生が寮長さんでいらして、そのほかに田中先生という師範を出られた女の先生と私がいて、本部だったのです。その時は座光寺村にはもうひとつ須田先生がいらした如来寺というのがありました。如来寺にいった須田先生は「貴方がたは私が責任を持って護るから安心しなさい」っておっしゃって、子供たちばかりでなく私にも親みたいな存在でした。私は須田先生と一緒にいたかったんですが、如来寺には私と同じような北沢に住んでいて助教になった片山さんという私より若い女の先生がいて、私は年上なのであきらめざるをえなかったんです。(笑い)

如来寺は麓ですが耕雲寺は山の上だったんです。須田先生のところは東京から行った女

の子だけが集められて一クラス作って、あとの生徒は皆土地の小学校に土地の子に混ざって入ったのです。私は昔から唱歌が駄目なのに「音楽教えろ」と言われて、困りましたね。私の時代はピアノなんてやつていなくて、琴・三味線・日本舞踊の時代でしたからお琴はずっと習っていたんですが、ピアノを自己流で猛練習してバイエルくらいは弾けるようになりました。

あやふやでね、地元の小学生と一緒にクラスで教えたのですが、地元の担任の先生が心配して、「東京の若い先生は大丈夫だろうか」って、授業の間じゅう陰で様子を見ていらつしやったことが分かつて、恥ずかしかったですね。音楽の他にはお習字を教えていました。お習字も苦手だったんですが、自分で書くわけでないのので、「あらこの線はいいわねー」なんて褒めたりして、教えていました。いい加減な先生でしたねー。(笑い)須田先生はピアノがお上手でした。なんでも天皇陛下の前で弾いたことがあるといううわさがあつたくらいですから。

再疎開して伊那に七カ月いました。子供は一年生だつて一人で来ているでしょう。それなのに私がホームシックになるのです。生徒の前では「お国の為に頑張りますよー」なんて偉そうなことを言っているけど、夜は赤石山脈の方を眺めては、「あの向こうに東京がある」と泣きましたね。初めて家から離れたでしょう。手紙で両親に「帰りたい。帰りたい。」って書いて父が迎えに行くという手紙がきたのです。もう吃驚しましたね。小学一年生たちが一人で来ているのに先生がホームシックになって親に連れて帰られたら大変だと思つて、すぐ手紙を書いて「頑張るから来なくてよい」と言いま

したね。本当にしようがない先生だったですね。(笑い)

小学校の名前は座光寺小学校だったような気がします。いまだに忘れられないのは、広い講堂を疎開組が掃除しろと言われて、五、六人の女の子が一生懸命やるんです。それでもなかなか終わらないうちに鐘がなっちゃうのね。すると校長先生が「疎開はダメだ。疎開はダメだ。」って悪口おっしゃるのね。悔しくて本当に文句も言いたけれど言えないし、それで須田先生に訴えたら、「教頭さんがいい方だから話す」といつて話して下さったことがありました。いまだに忘れられませんね。

それから思い出すのはシラミと蚤ですね。蚤は畳の上をピョンピョン跳ねるし、頭にはシラミが一杯でしょう。学校から帰ると生徒が五人くらい私を囲んで「わたし先生の前のシラミとる。わたし後ろのシラミとる」って大騒ぎなんです。みんなシラミがたかつていましたね。シラミは何か弱い熱っぽい子に多かったですね。

浅間温泉とくらべると伊那ではお風呂にも苦労しました。普通のお風呂ですから一週間に一度くらいしか入れませんでしたね。

疎開先には先生の他に寮母さんという方も居ました。ひとつのお寺に二人くらい寮母さんがいましたね。皆さん東京から行った方たちでした。東大原小学校が寮母さんを募集して連れて行ったのです。子供たちの世話をしてくれました。吉田千恵子さんというはきはきした人がいた記憶があります。青井のアルバムにも映っていますね。

青井は飯田では耕雲寺でなく隣の村にいて、そこで召集になつて兵隊に行きました。あした

船に乗って南方へ行くという日が終戦だったそうです。このアルバムに学童が二十年十一月、東京に帰って来た日の焼けおちた学校の前で撮った写真がありますが、青井はその時にはもう学校に戻っていたのですね。

終戦の日の玉音放送のことはよく覚えています。みんな悲壮な顔をして沈んでいるのに、私は「東京へ帰れる」と思って嬉しくて嬉しくて、（笑い）それでも「大変だ、こんなにこにこしていたら大変だ」と思って神妙な顔をしたのを覚えています。私は東京に帰ってきて一年くらい学校に居ましたが、「自分は先生に向かないから」と言って言ってさっさと辞めちゃったのです。そのときはまさか青井と一緒にいるとは思っていませんでした。もちろん顔は知っていませんでしたが、昔のことだからあまり口もききませんでしたからね。辞めた後で、またまた須田先生のお世話で青井と結婚することになったのです。青井は父とお見合いをしていましたね。あのころ先生は薄給でしょう？ 父がなかなかうんと言わなかったのです。昭和二十二年に結婚しました。（文責臼井良雄）

直近の同窓会活動報告

前回の会報が出た、平成二十四年七月から現在平成二十五年一月までの同窓会活動を報告致します。同窓会の目的は二つあり、一つは同窓生ならびに母校の発展に寄与する、一つは会員相互の親睦を図るであります。

・東日本大震災の被害者に対する義援金を昨年度同額の三万円を赤十字を通じ寄付。
・同窓会文庫での児童図書支援 今期は十万円
の予算をとっており、七月に第一回百十三

冊、一月に第二回十四冊の寄贈を実施。

二十三年度に実施したものに加えると合計二百二十二冊の寄贈になりました。

・母校八五周年の式典七月七日に出席

・十二月にくるみ学級餅つきと校庭解放委員会主催の餅つきに参加、餅をつく

・十月二十九日PTA主催の童話作家伊勢ひで子さんの講演会に協力参加。

・少子化に伴う学校統廃合の話が出て、同窓会も其の説明会には参加し、意見を述べた。

・「ライブで楽しむ東大原」主催の十二月六日成徳学園ホールで行われた「たまつ子座太鼓ライブ」への参加

・親父の会主催のミニ四駆の会に参加

・親父の会主催の学校キャンプに参加

・親睦ゴルフの会は六月四日十五人参加で実施

地域の方々をも巻き込み継続中

・秋の親睦旅行は十月十四日箱根に行った。

・子供の一一〇番の運動に協力。基本的には子供が危険な状況になった時に飛びこめる家だということを表示したポスターを家の前に貼る。

・北沢商店街主催阿波踊りの会に参加

同窓会のホームページのご案内

同窓会ではホームページを公開しています。アドレスは八ページの上記のとおりです。

「東大原小学校同窓会」で検索も可能です。

東大原小学校同窓会のホームページには誰でも簡単に書きこめてコミュニケーションがとれる掲示板のページがあります。連絡などに気楽にご利用ください。

編集後記

今号は母校八十五周年を祝つての記事を中心に編集いたしました。また以前から取り組んでいます、学童疎開の記憶を残す活動の一環として、学童疎開の引率者として実際に伊那座光寺村に生徒たちを引率し過ごした青井文子さんのお話を収録し載せることが出来ました。

本紙がご縁になってより多くの同窓生による貴重な記憶が残されることを嬉しく思います。

永年同窓会評議員として貢献なされた富安好恵さんが昨年四月急逝なさいました。生前の貢献に感謝するとともに慎んでご逝去をお悼み申し上げます。

同窓会への連絡、問い合わせ、寄稿の送付、送金の方法について

同窓会の事務所の所在地は会則では「東大原小学校」となっております。

しかし現状では、学校内で事務を行うことが学校管理上の理由で出来ません。会員各位にはこの点でご不便をお掛けします。

現在の事務所の住所は左記のとおりです。連絡は郵便かFAXでこちらにお願いいたします。

郵便番号 一五五・〇〇三一
世田谷区北沢二丁目三五・九
小清水ビル5F
東大原小学校同窓会事務局
FAX 03-54545356

本同窓会は政治・宗教・思想について中立を守ります

— 8 —